

# 第70回 日本 PTA 全国研究大会 山形大会

「人とひとのつながりを体感しよう」

～あがらっしゃい精神の山形から～

2022.8.26 分科会

2022.8.27 全体会

## 参加報告

大阪府PTA協議会

安田 友紀

猛暑も一段落した8月26日、第70回日本 PTA 全国研究大会山形大会が開催され、大阪府 PTA 協議会からは、役員・理事合わせて8名が参加しました。

大会初日は山形県内の10会場に分かれての分科会の開催です。私は米沢市で行われた第6分科会の「情報教育」に参加させていただきました。

歓迎アトラクションは、米澤民謡一家・武将隊・武てい式保存会の三団体で構成され、力強い上杉太鼓の音色と勇ましい武将隊の演舞は、まるで戦国時代にタイムスリップしたかのような迫力でした。「武てい式」とは上杉謙信が合戦前に必ず行ったという、軍の守護神を招くための儀式だそうです。上杉氏のお膝元、米沢の魅力が存分に伝わった20分間でした。

続いて、楽しみにしていた葛西紀明氏の講演です。「夢は努力でかなえる」をテーマにお話ししてくださいました。最初にポケットから取り出したのはオリンピックで獲得した大きなメダル。そして、そのメダルは参加者の皆さんが手に取ることができるよう、客席へと回して下さいました。さすがスキージャンプ界のレジェンドです。貧しかった幼少期、ご家族の不幸や所属先の二度にわたる廃部など数多くの逆境に立ち向かう中で、お母さまからのお手紙には幾度となく励まされたそうです。実際に読み上げてくださったそのお手紙は、多くの保護者が胸を打たれる内容でした。子を想う親の気持ちが深く感じられ、会場に共感と感動を与えてくださいました。

日々の積み重ねと家族を想う気持ちを大切に、50歳となった今も金メダルを追う姿はキラキラと輝いていて終始惹きつけられる講演でした。

そして第六分科会の研究課題である「デジタル社会におけるICTの有効な活用の仕方」では、新保氏の実践発表から始まりました。生産年齢人口が減り続け、資源の少ない日本において、どのように教育の質を発展させていくかは最大の課題だということ。そしてそれを実現するためには ICT の活用はなくてはならない存在だということ、いくつかの学校で実際に取り組まれている事例とともに発表されました。

実践発表の後は、警察署の少年課や、心理士、教員など様々な立場のパネリストの方の意見交換の時間です。子どもたちの情報活用能力の育成を図るにはどうすれば良いかは、常に主導権は大人がにぎり、まず健康管理をしっかり管理することが基本。中高生では自分をコントロールする精神力が成長の途中であり、まだまだ未熟で保護者の存在が大きいことがわかりました。コロナ禍となった今、対面でコミュニケーションをとる機会が減りましたが、ICT をうまく活用し親が家庭でできることは何か、学校と連携してできることは何かをあらためて考え、「つながり」を見つめなおす良い機会となりました。



第6分科会(米沢市)



歓迎アトラクションの様子



上杉景勝をイメージしたゆるキャラ「かげっち」

大会二日目は、全国より約 6500 人の PTA 会員が山形市に集いました。

山形県出身のシンガーソングライターで民謡日本一に輝いた朝倉さやさんのパワフルな唄声と、山形大学の花笠サークルの皆さんの華麗なパフォーマンスで開幕し、開会宣言のあと次期開催地である広島県へと引き継ぎが行われました。

記念講演では、「一本のタクトは、人のこころを豊かに幸せにするアイテム」と題して、指揮者・飯森範親氏が軽快なトークで会場を沸かせてくださいました。

幼少期に近所の桃を失敬して母親と一緒に謝りに行った時、「ちゃんとお礼しなさい！」と息子を叱ったお母さまのエピソードでは、子育てには正解はなく、こんな風に育ってほしいと思う気持ちが大切だと感じました。

ご両親から言われたことで、今でも守って実行し心に残っていること、それは「感謝の気持ちは持つだけでなく口に出して伝えること。お礼をいわれて嫌な気持ちになる方はおられない。」という言葉だとおっしゃっていました。

飯森氏の世界に羽ばたく才能が育まれた背景には、ご両親から教えられた「人とひとつながり大切なもの」が存在していたのだと思います。

そして最後の山形交響楽団の演奏は、大きな会場に響きわたる素晴らしい演奏でした。聴衆者一人ひとりを見えない糸でつなぎあうかのようなその演奏は、まさに今大会のスローガンである「人とひとつながりを体験」できるものでした。

With コロナの時代といわれ人とのつながりが希薄になり、それさえ気づくことができない状況の中、山形大会は「人とひとつながり」をスローガンにしてとりくまれました。「あがらっしゃい」は山形の方言で「どうぞお入りください」といったおもてなしの心が込められた言葉だそうです。三年ぶりの対面での全国大会では、そんな実行委員会の皆さんの現地開催実現への熱い思いを感じるとともに、ふるさと山形を愛する気持ちが十分に伝わってきた大会でした。

今回の参加で得た「まなび」を日々の PTA 活動に活かし、横のつながりだけでなく次の世代へもつなげていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

最後に、山形大会の開催にあたり力を尽くしてくださったスタッフや関係者の皆さまに、みんなで学ぶ共感の場を与えてくださったことに感謝申し上げます。

2022.9.8



全大会メイン会場・山形スポーツセンターにて



花笠踊りの歓迎アトラクション